

第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会 会議録

日 時 令和2年12月16日(水) 10:00~12:00

場 所 鶴瀬西交流センター2階会議室

出席者 ○市民懇談会参加者

猪俣	関根	新井	荒井	浅野	瀬戸
○	○	○	○	○	欠
上川	戸塚	搦木	小栗	渡邊	大下
欠	○	○	○	○	○

○事務局

【地域文化振興課】平課長、佐藤、高橋

【生涯学習課】 深迫課長、玉田

○傍聴者

なし

1 開会

平課長あいさつ

2 議事

(1) 次期生涯学習推進基本計画について

猪俣座長あいさつ

資料について事務局より説明

(2) 質疑

参加者) 24ページ以降の取組の方向性について今後増えていくことを期待している。行政に期待することは、若者が参加しやすい環境を整えること、非正規社員に対してのフォロー、子育て世代や働く世代が学習できる様な環境整備など、様々なニーズに対する配慮である。

事務局) これまで市民懇談会や庁内の生涯学習推進委員会で、若者や新たな学習参加者を獲得するための事業実施が必要であると指摘されている。その他の課題も含め、現在、公民館と交流センターに課題解決に向けた事業について検討を依頼しているので、アクションプランとして取りまとめてお示ししたいと考えている。

参加者) 市民活動の様々な場面において、新たな人材発掘は共通のテーマであると感じている。生涯学習についても同様で、若者も含めた幅広い世代の人材確保は永遠のテーマであると感じる。

座 長) コロナ禍でリモートワークも増えてきた。空いた時間で何か学習できるよう

な魅力のある取組みを検討いただきたい。社会の変化にも対応した形で、幅広い世代に働きかけてもらいたい。

参加者) 公民館で活動を行ってきたがコロナの影響もあり、今まで通りの活動だけではいけないと思った。フェイスブックを使用して、「うちでつくろう」という、自粛期間中に料理のレシピを発信する事業を行った。自粛期間中に市民の皆さんが欲しがっている情報は、料理のレシピ、運動不足解消のために家でできる体の動かし方、音楽などの娯楽であった。これらは公民館の活動で既に行われているコンテンツであると考えた。生涯学習という言葉にとらわれすぎない方がよい。公民館の活動も皆さんが欲しているコンテンツと考えれば、行政がその紐づけをしっかりと行うことで、結果として生涯学習に取り組んでいたということに結びつくのではないか。

座長) 公民館等での生涯学習活動が、情報発信の材料となる様々なコンテンツであり、それらをどのように発信し若者や幅広い世代に伝えるかが重要である。ぜひアクションプランにも結び付けてほしい。今後のスケジュールについて伺いたい。

事務局) 現在、公民館と交流センターに実施事業の検討を依頼している。今後、全庁的に生涯学習事業について照会してアクションプランを年度末までにとりまとめ、生涯学習推進基本計画と併せて策定していく。各種の生涯学習事業をアクションプランに落とし込んで、分かりやすく多くの市民に興味を持ってもらえる事業を掲載できるようにしたい。

座長) 生涯学習推進基本計画自体は、興味を引く内容にするのはなかなか難しいと思うが、概要版についてはそのような内容にできるのではないかと思う。

事務局) 庁内の議論でも、これまで生涯学習に興味のない人が見たときに理解されるための工夫をするようにといった意味合いの指摘を受けた。

座長) 計画の冊子を全世帯に配布する予定はあるのか。それとも公民館等に自ら足を運んで入手する必要があるのか。生涯学習を身近に感じてもらえるように、少なくとも概要版の全戸配布を検討してほしい。

参加者) 予算も限られているので、全世帯配布のために予算を使うより、デザインを向上するための予算として使ってほしい。デジタル媒体で確認ができるものであれば冊子でなくてもよい。全世帯に配布することイコール全世帯が見るということには必ずしもつながらない。

行政はオンラインによる情報発信に対するハードルが高すぎる。オンラインシンポジウムの開催を提案しても、できない理由が先に出て、どうやったらできるのかをなかなか提案してくれない。行政のオンライン発信に対するハードルを下げることができれば、発信力は高まるのではないか。

参加者) 私はパソコンが自宅に無く得意では無い。得意な人もいれば苦手な人もいる。

参加者) 得意か不得意かに限らず、情報を受け取る側の状況は様々であることは理解している。必要な人に情報を届けるための発信方法を考えるのは、行政の役割である。

参加者) 現地開催とオンライン開催との並行開催も増えている。高齢者はオンライン開催が味気無いものと考えがちである。

また、富士見市の事業ではSDGsについてあまり聞かない気がする。もう少し関連付けても良いのではないか。その方が若者に興味を持ってもらえるのではないか。

座長) 現在はICTに抵抗がある世代とそうでない世代との過渡期であると考え。幅広い世代をカバーできるような生涯学習環境の整備を期待する。

参加者) 24ページのKSFについて、ライフステージに合った事業が行われていると感じている人の割合が低い。人材バンクに登録はするが、活動する人が少ない状況にある。自分は活動を通して学びたいと考えているが、活動まで至らなかった理由を把握できないのか。

事務局) KSFについては、アンケート結果を踏まえ、最低限達成したい目標とした。富士見市では多くの生涯学習事業が実施されているが、十分に周知ができていない部分もあり、より効果的に周知できれば、数値も上がってくるのではないかと考えている。

参加者) 市民は、生涯学習と聞くと敷居が高いものと感じる。その一方で、生涯学習であることを意識せず活動に取り組む子育て世代もいる。公民館も様々な生涯学習事業を提供しており、水谷公民館は、生涯学習活動を通じて地域のハブ機能となるなど、各公民館等では質の高い生涯学習活動が実践されている。

参加者) 行政は、生涯学習という大枠があってその中に様々な分野があると定義してしまっているのではないか。様々な分野の生涯学習という商品が並んでいて、その中から選ぶというようなイメージで話が進んでいるが、逆の発想で、自身が行っている活動は実は生涯学習であり、その先にまた違った活動もあることに気づいてもらう。そのような認識で生涯学習を広めていく時代なのではないか。市民がアクションプランを通じて、市の生涯学習をボトムアップしていくようなイメージになるとよい。

参加者) 生涯学習はリタイアした世代が行うものというイメージが強くついてしまっている。本来であれば日々行うものであるが、一般的には浸透していないと感じる。今までも高齢者と若者では考え方、活動方法、情報収集方法のギャップはあったが、今回、コロナによりそのようなギャップがはっきりと可視化されたのではないか。水谷公民館の活動はひとつの成功例と言えるので、他の公民館や交流センターも参考にしたらよい。施設同士が互いに切磋琢磨し、第6次基本構想が目指す20年後の「充実した日々」につなげてほしい。

参加者) 生涯学習は人づくりである。生涯学習の柱は公民館の活動、出前講座、パソコン教室、子育て世代への支援等と考える。ぜひ、アクションプランに組み入れてほしい。

参加者) 富士見市には水子貝塚公園等の素晴らしい施設がある。それらを活かした活動を願っている。

参加者) 小・中学生は自分に興味のあるものに没頭してもらい、それが生涯学習に繋がっていけばよい。今の若い人は、ネットですぐに調べることができて、情報が溢れており、かえって学ぶ意欲や時間の不足に繋がっているのではないか。近くの公民館等で面白い事業が行われていても、足で情報収集を行うということは無くなっている。富士見市で学習するならまずここを見れば大丈夫

夫というような、市の生涯学習情報を集約したものがあればよいと思った。行政の情報発信力に期待する。

座 長) 相手に届く情報提供を行ってほしい。数値目標の考え方について、13事業から15事業にするといった場合、ただ2つ増やすという考えではなく、現状維持の事業、新規の事業、無くす事業等を様々検討した結果、事業が2つ増えたという形になるとよいと考えるが、この点についてみなさんの意見を頂戴したい。また、計画の表記について、25ページのユニバーサルデザインの解説が、「を目指したデザイン」だとわかりづらいので、「設計」や「考え方」といった締め括りが良いのではないか。

事務局) 表記について修正する。

参加者) 21・22ページの施策体系図に関してはページをまとめた方が見やすいと思う。もう1つは2ページの図1に「必要に応じ見直し」とあるが5年毎に見直すものではないのか。

事務局) 施策体系図については修正する。2ページの図1については、次のタイミングで再度計画を策定するのか、期限を定めない方針とするのか現時点で決定していないため、このような表記となった。このような背景を記載するか検討したい。

参加者) 第6次基本構想が掲げる理想の未来を「充実した日々」としているがもう少し具体的な方がよい。

参加者) 「充実した日々」は第6次基本構想で目指すものであり、現在の議題となっている第3次生涯学習推進基本計画は第6次基本構想の部門計画。第3次計画の個々の事業を積み上げていき、「充実した日々」に繋がっていく形だと思う。

事務局) 第6次基本構想の部門計画は第3次計画だけではなく、例えば高齢者のための計画等もある。20年先を見越した構想であるため幅広く解釈できる表現になっている。今回の第3次計画だけで「充実した日々」を具体化というものではない。前回の懇談会で第6次基本構想と第3次計画等の関係がわかりにくいとの意見があったため、18ページに基本構想・基本計画と今回の部門計画について視覚化して示したが、さらに説明を追加する。

座 長) 35ページのK S Fについて、他では件数や数値が具体的に記載されているが、ここだけは「充実・拡大」となっているのはなぜか。

事務局) 単純に回数を増やせばよいということではなく、回数が減少しても内容が充実する場合も想定したため、このような記載となった。

座 長) 概要版については分かりやすく、興味を引くものにしてほしい。「第3次生涯学習推進基本計画」が副題になってもよいのではないか。

次はアクションプランについての意見を伺いたい。

参加者) アクションプランは、予算規模が分かる様式になるとよい。評価においては、事業の実施回数や参加者の人数を把握することも大事だが、事業にかかった費用を明確にすることも大事である。

事務局) 予算の見える化は工夫していきたい。市の予算や実行委員会方式等様々あるが、見やすくなるようご意見に対応したい。

参加者) 評価結果を次年度の事業に反映することができるため、5年後にまとめて評

価するのではなく、毎年評価することは良いことだと思う。

参加者) アクションプランに事業を一覧化して掲載することによって、市民は自身が参加した事業以外にも目を向けるのではないか。また、予算についての記載があることで、評価もしやすいし、市民ニーズからどの事業に予算を手厚くすべきかなどの判断もしやすいと思う。また、行政がやること、市民がやること、業者に依頼することなどのすみ分けが必要である。周知や広報について、行政は必ずしも得意とは言えないので、思い切って業者に依頼すべき。

参加者) パソコンが不慣れな高齢者もいるため、パソコン指導教室を増やしてほしい。
事務局) 現在、パソコン相談室を各施設で行っている。引き続き、市民や利用者のニーズに合わせて検討していきたいと考えている。

座 長) 最後にアクションプランの見せ方として、どのような考えでこの様式になったのか伺いたい。

事務局) これまで、生涯学習の取組み事業が一覧化・見える化されておらず、生涯学習事業の評価にも影響していた。このため、市民にもわかりやすくなるよう文化芸術のアクションプランを参考に様式を作成したものである。本日伺ったご意見も取り入れて作り上げていきたい。また、現在各公民館、交流センターに現状の事業の課題解決につながる事業、地域特有の課題解決につながる事業、ウィズコロナ、アフターコロナの時代において必要となる事業について照会をしている。各公民館等の事業をアクションプランに落とし込むことで、それぞれの公民館等の担当者が他施設の事業を参考に、事業のブラッシュアップや新規事業などの検討をするきっかけにつながるものと考えている。

3 その他

(1) 今後のスケジュールについて

- | | |
|------|------------------------------------|
| 1月 | 政策会議 |
| 2月 | パブリックコメント実施 |
| 3月 | 生涯学習市民懇談会開催
第3次富士見市生涯学習推進基本計画完成 |
| 4月以降 | 印刷、配布 |

(2) 組織改正に伴う対応について

組織改正に伴い、市民懇談会の事務局は生涯学習課となることを説明。

4 閉会

深迫課長あいさつ